「弥生銀座」のムラ

比恵・那珂遺跡群

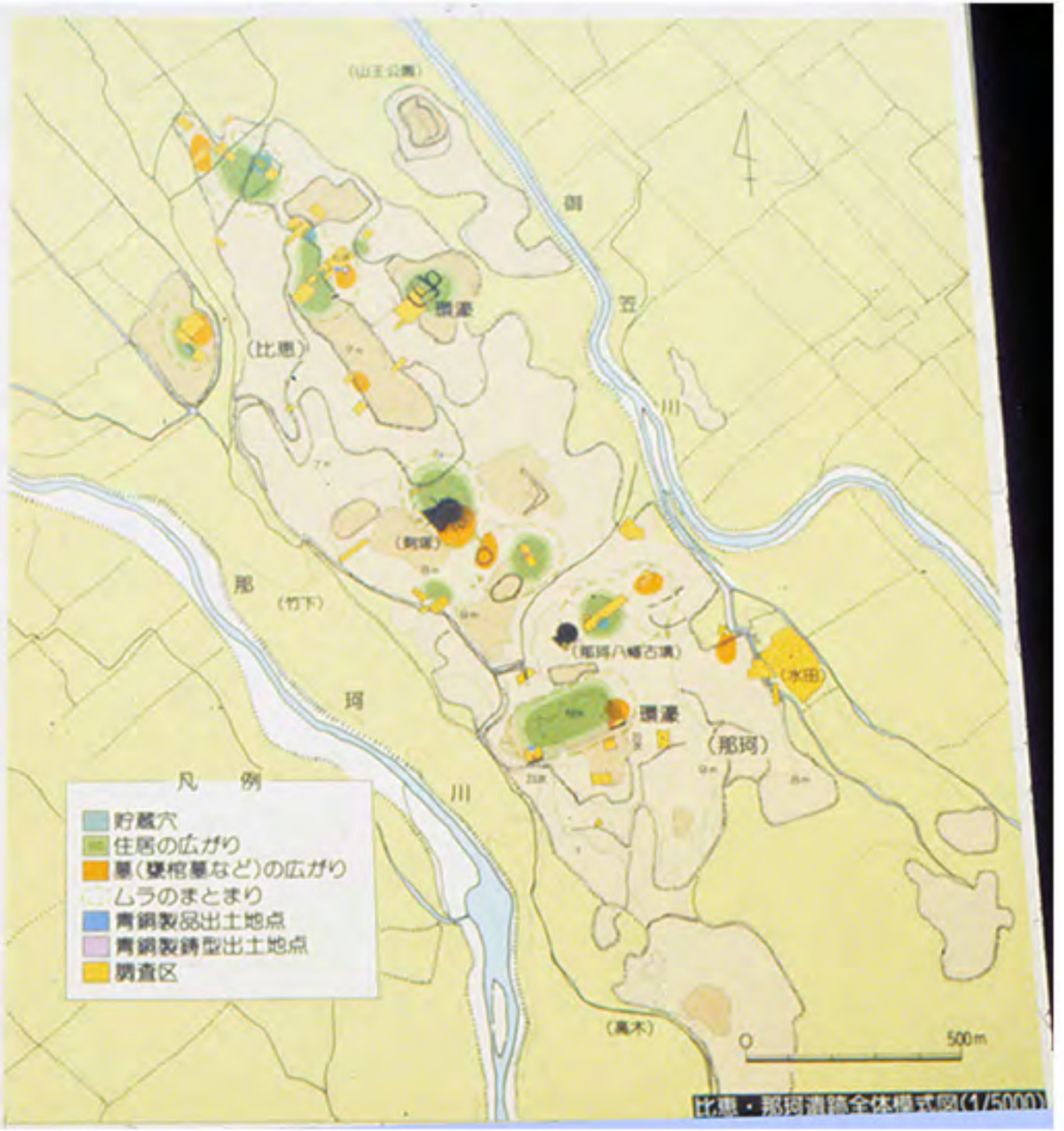
所在地　博多区瑞穂・小林町・那珂他地内

展示資料　比恵6次(1982年度調査)

那珂8次(1986年度調査)

那珂23次(1989年度調査)

比恵・那珂遺跡遠景（南から。1973年ごろ）



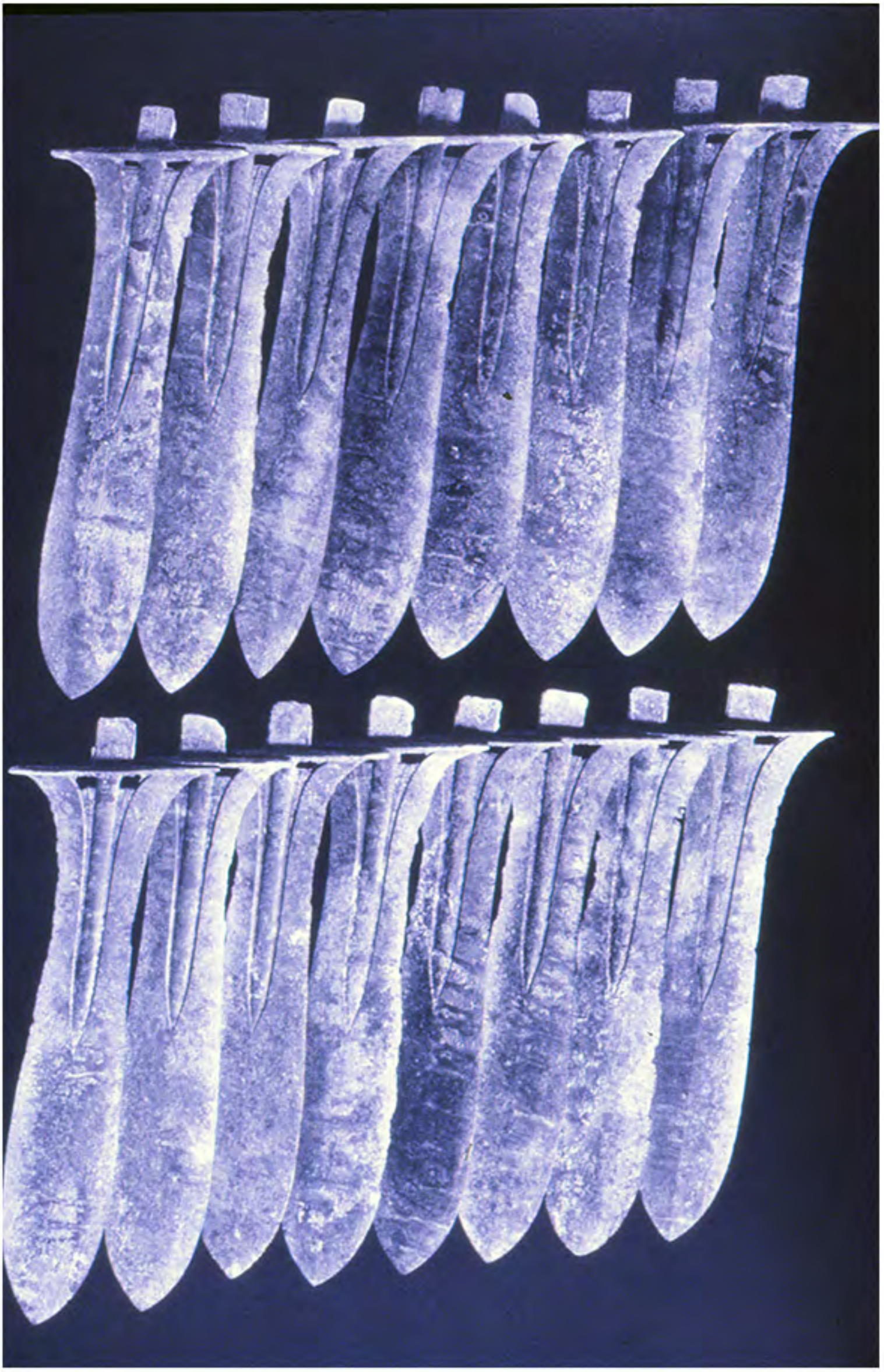
比恵・那珂遺跡全体模式図(1/5000)

那珂遺跡37次調査検出の環濠遺構（福岡市教育委員会提供）

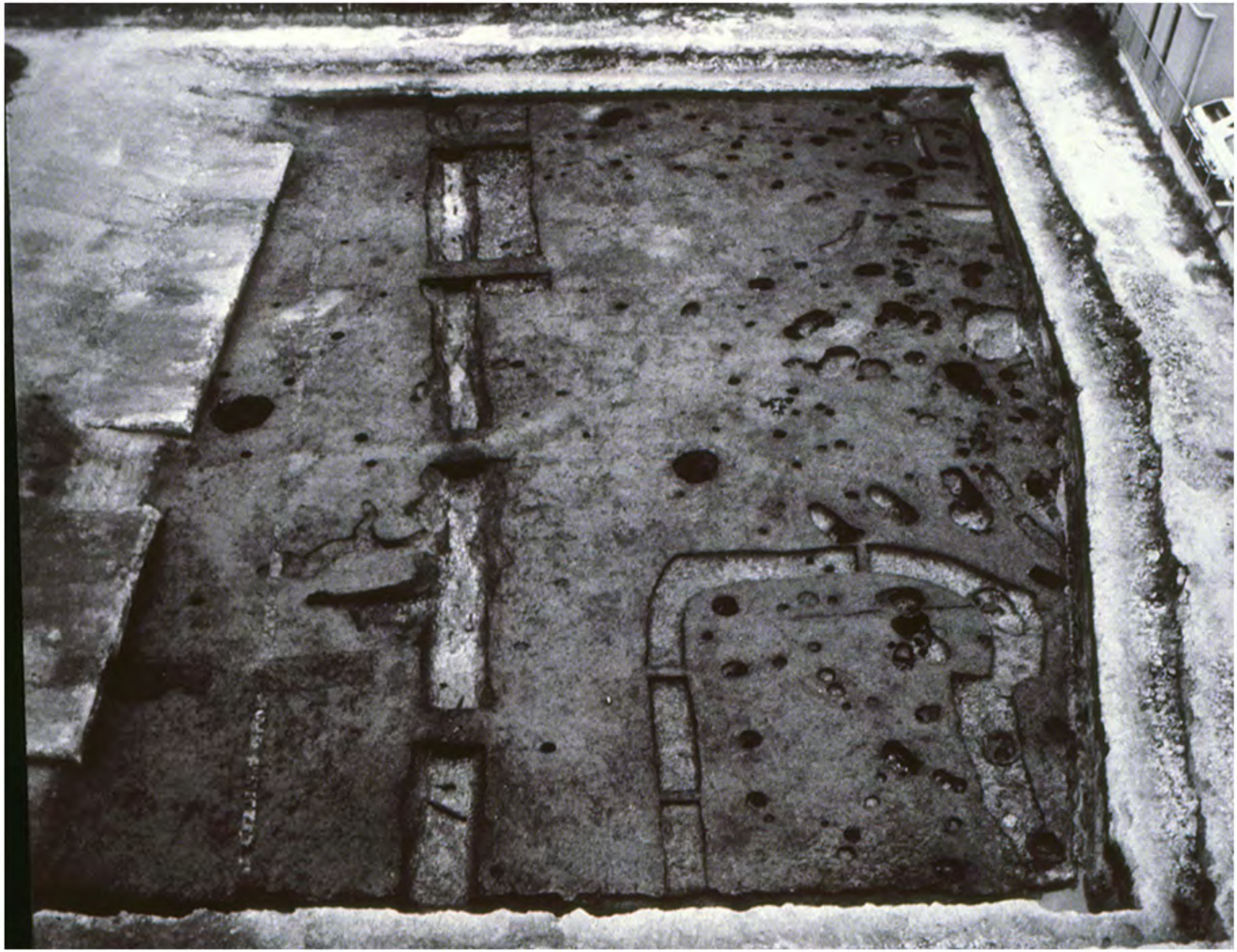
有料駐車場

まがたまいがた
勾玉鋳型
須玖五反田遺跡
弥生後期・レプリカ
ガラス製鏡片
須玖坂本
取瓶
銅矛
中子
須玖坂本遺跡
弥生後期
坩堝

査で発見されたガラス製の首かざり



hi-lite



須玖永田遺跡
須玖岡本遺跡の北約３００ｍの低地にある
弥生時代後期後半頃の遺跡で、１９８５年に
調査しました。
７００㎡を調査した結果、掘立柱建物１５
棟や井戸、溝が出土した。調査区の南で見つ
かった溝を境に南側には遺構はほとんどなく
遺跡を区画するとみられる。
この遺跡で特徴的なことは、青銅器生産に
かかわる遺構が発見されたことです。特に掘
立柱建物のひとつに方形に溝を巡らした建物
があり、この遺跡の中では特異な存在です。
青銅器生産にかかわる遺物としては、溝や
柱穴の中から鋳の鋳型・鋳造炉や銅鏃先の中子
・取瓶・フイゴの羽口・銅滓などがあり、鋳
は径が８ｃｍの四行花文鏡と呼ばれているも
のです。これら一連の遺物により工房跡の存
在が裏付けられました。
これと同じような遺構が南西４００ｍで馬
田遺跡で調査されています。
中子・銅製品の空洞部分をつくり出すた
めの土でつくった型。
取瓶・溶けた銅を鋳型に注ぐ容器。
フイゴ羽口・銅を溶かすために差しこんだ
送風管。
銅滓・銅をつくる時に出るカス。

王墓と王族墓

明治32年に当地で発見された甕棺墓からは、前漢鏡30面前後をはじめ、銅剣・銅矛・銅戈が8口以上、またガラス璧や勾玉など多数の副葬品が出土し、この墳墓は「奴国王」の墓に比定されています。王墓は偶然発見されたため、具体的な内容については明らかとはなっていません。しかし、周囲の状況から判断すると、墳丘墓に単独で埋葬されたと思われます。そして甕棺の上には、長さ3.3m、幅1.8mの大石が設置されていました。(大石は現在、熊野神社の境内に保存されています。) この厚葬墓には、建武中元2年(A.D.57年)に後漢の光武帝から金印を授かった「奴国王」より数世代前の王が葬られたと推定されます。

一方、平成2年の調査では、この王墓の北西側に隣接して墳丘墓が確認され、内部から多数の甕棺が発見されました。この墳丘墓は、王墓と同時期の弥生時代中期後半(今から約2000年前)に築かれた「王族墓」と見なされています。王族墓からは鉄剣や鉄矛などの副葬品が出土しましたが、王墓の内容にはとうていおよびません。中国鏡などひときわ貴重な品々は、おそらく王墓に集中して副葬されたのでしょう。

奴国王とその一族の墓からなる須玖・岡本遺跡は、弥生時代の社会を究明する上で貴重な遺跡となっています。

1993年3月
春日市教育委員会

明治32年発見王墓想定図

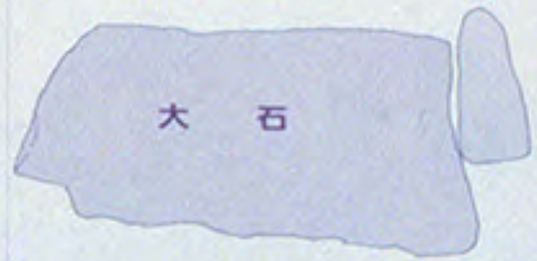
王族の甕棺墓 平成2年調査

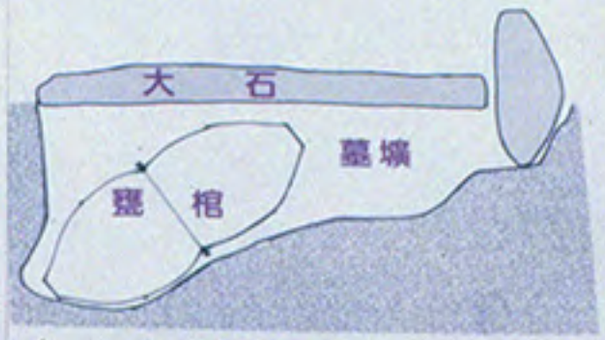
須玖・岡本遺跡の調査状況 (ドットは甕棺墓・土壙墓)

王墓の上石

明治３２年（1899）に大石の下から中国鏡３０面前後、銅剣・銅矛・銅戈・ガラス璧・ガラス勾玉など多数の副葬品とともに甕棺墓が発見され、この大石が厚葬墓（王墓）の上石ということがわかりました。

大石は図のように甕棺墓の上に標石状にのせられていたと考えられます。発見時の記録と近年の周辺の調査から王墓は墳丘墓であったこともわかりました。平成１０年（1998）現在地に移設しました。

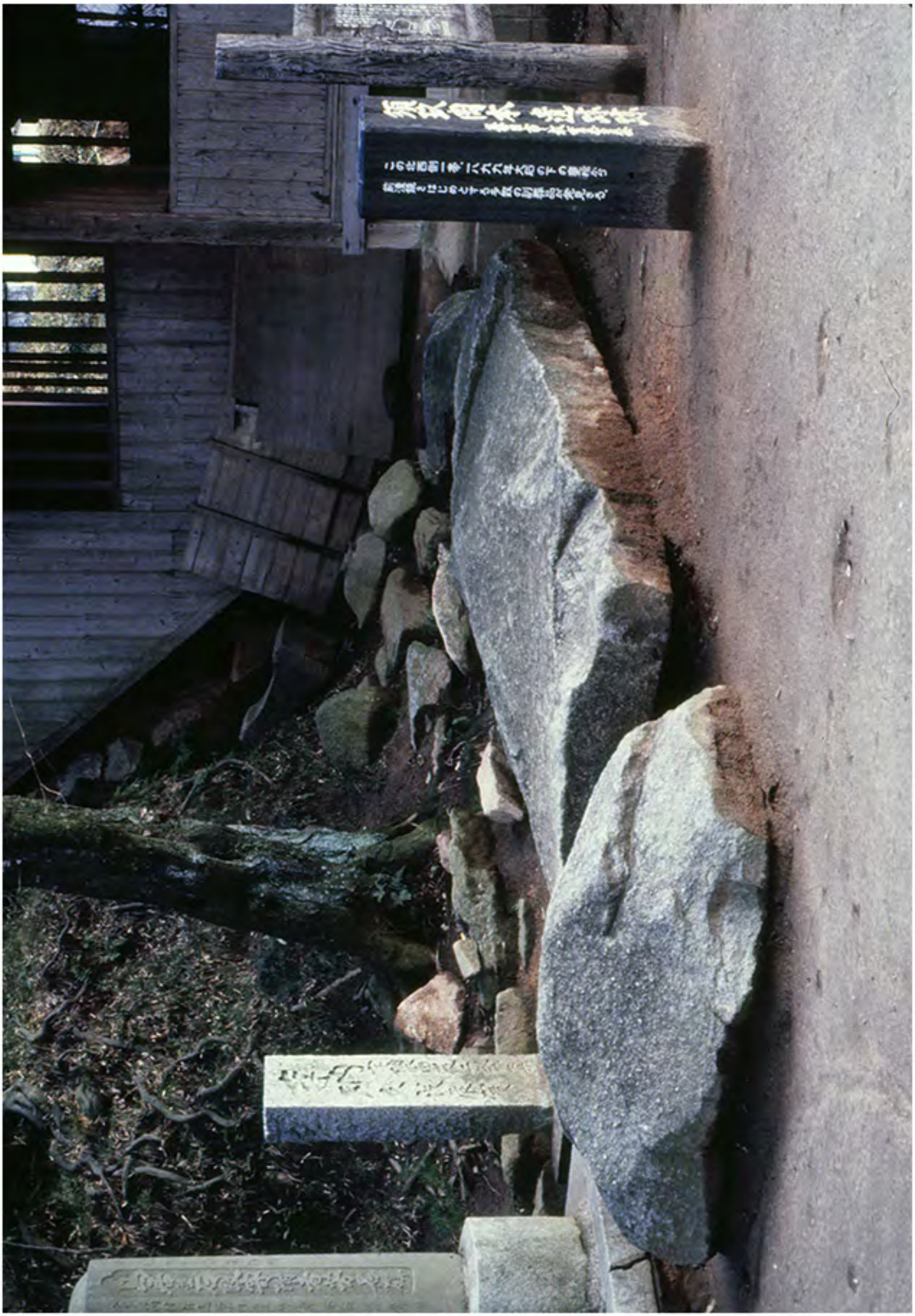




王墓想定図

王墓の復元（奴国展示館）

王墓出土鏡（復元）



小児用甕棺

須玖・岡本遺跡の調査状況（ドットは甕棺墓・土壙墓）

鋳　型
玉原石